

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもさぼーとるーむ楽喜あかみち		
○保護者評価実施期間	令和8年3月15日		～ 令和8年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和8年4月10日		～ 令和8年4月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容を選択できる	子どもたちが主体となって活動内容を決定し楽しみながら身体を動かす事ができる。自分たちで決めたからこそ、負けた時にスムーズに受け入れる事ができたり、自分たちで時間を見ながら活動する事ができる。	夢中になって時間が分からなくなった際に声掛けを行ったり、職員も一緒にチームに入る事チーム差が生じないように助言を行っている。
2	活動内容の充実	平日・休日ともに様々な活動を計画し固定化されないように適宜特性や年齢に応じた活動を取り入れている。	活動に応じて得意・不得意がある児童に対応できるよう臨機応変に別ルールを設けたり、個物の活動ができるよう工夫していく。
3	送迎時に保護者の方と交流、情報交換を行っている。	その日にあった出来事、様子等、毎回伝えるようにしている。時には、雑談を交えながらコミュニケーションを取っている。また、お休みの確認、送迎時間の変更等、行き違いがないように連絡を取り合っている。	今後もさらに保護者とのコミュニケーションを積極的に図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民との関わりが少ない事	地域住民を招待してのイベント等を計画する事が中々できていない	地域の方々に向けてパンフレットなどで活動内容を報告したり、イベントを企画し活動を知ってもらう機会を設けたい。
2	地域の子どもの交流や放課後等デイサービス・児童館等との交流機会が少ない。	保護者のニーズ(宿題対応や学習支援)に応えることを優先しているため、プログラムの時間配分が交流に割けない状況になっている。	平日での交流が難しい場合、地域のイベントや交流会の情報を保護者へ共有し、家庭と連携した参加を促す工夫を行う
3	保護者向けの家族支援プログラムや情報提供の機会が十分に整っていない。	保護者のニーズが多様であり、どの内容をどの形式で提供するか整理が必要な状況である	保護者支援の内容や目的を整理し、参加しやすい形式・時間帯での講座や相談会の実施や、家庭での支援につながる情報提供を充実させる必要がある。